

## 令和7年度第1回岡山市基本政策審議会

令和7年5月26日（月）

### 1 開会

○司会 定刻が参りましたので、ただいまから令和7年度第1回岡山市基本政策審議会を開催いたします。

私は、本日の司会を務めさせていただきます政策企画課の由利でございます。どうぞよろしく願いいたします。

開会に当たりまして、大森市長からご挨拶を申し上げます。

### 2 市長あいさつ

○大森市長 皆さん、こんにちは。

お忙しい中、基本政策審議会にご出席をいただきましてありがとうございます。

今日から、次期総合計画に向けた議論をスタートさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

この審議会が始まる直前でありますけれども、多くの市民の皆さん方が市長室に来ていただきまして、この12年間の市政の運営について評価をいただきました。あまり各論は今日はやっておりませんが、やはり子育ての対応と申しますか、子育て環境の整備が上手く行ってること、また子供たちということに関しては、小・中学校の子供たちの学習環境そして学力も向上していること、そのほか、中心市街地が動いていること、そして全体としては経済が大きく動いている、こういったことが評価の中にあるものだというように思います。非常にありがたいことだと思っております。

しかしながら、様々な資料を見てみますと、全般的に、まちとしての評価はあるものの、買物とか遊び、楽しむというようなことについては評価は必ずしも高くない。そして、岡山に対しての愛着と申しますか、そういったこともやはりいま一つのところがある。我々としては、そういった面も念頭に置きながら今後議論を進めていかなければならないのかなというようにも思っているところであります。

メンバーの皆さん方それぞれのお立場の視点とともに、大きな面で、そういう岡山の市民とどうこれから一緒になって、いい方向に進んでいくのがいいのか、そういったことをご議論いただければありがたいなと思っております。よろしくどうぞお願いいたします。

### 3 委員出席状況

○司会 ありがとうございます。

本日は、過半数を超える11名の委員にご出席をいただいておりますので、当審議会は成立しております。

### 4 諮問書提出

○司会 続きまして、これからご審議いただきます次期岡山市総合計画の策定について、大森市長から阿部会長に諮問書をお渡ししたいと存じます。

大森市長、お願いします。

○大森市長 岡山市基本政策審議会会長、阿部宏史様。岡山市長、大森雅夫。

次期岡山市総合計画の策定について（諮問）。

岡山市基本政策等に関する審議会設置条例第1条及び第2条第1項第1号の規定に基づき、次期岡山市総合計画の策定について、貴会の意見を伺います。よろしく願いいたします。

○阿部会長 確かに承りました。

○司会 ありがとうございます。

それでは、これからの議事運営は阿部会長をお願いいたします。

### 5 議事

○阿部会長 それでは、議長を務めさせていただきます阿部でございます。委員の皆様方、引き続きましてよろしくお願いいたします。

それでは、会議次第に沿って議事を進めさせていただきたいと思います。

まず、会議の公開と傍聴の取扱いにつきまして、事務局から説明をお願いいたします。

○司会 事務局です。

本日は、傍聴の希望があった場合は、特に支障がなければ、会議の公開と併せて傍聴の許可をいただければと思います。

○阿部会長 本日の審議につきましては、特に支障になる事由はないと思われまので、本会議の傍聴を許可したいと思います、委員の皆様方、いかがでございましょうか。よろしゅうございますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、本日の会議の傍聴希望者には傍聴を許可いたしまして、入室いただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。よろしいですか。

それでは、協議に入らせていただきます。

まず1番目の、次期総合計画策定に当たって、4つの大きな視点の提示をはじめとして、基本的な考え方（案）につきまして、事務局のほうから説明をお願いいたします。

○北川政策局長 事務局、政策局長の北川でございます。

資料4を用いて説明をさせていただきます。

本日は、次期総合計画のコンセプト（案）、基本的な考え方についてご説明した後に、委員の皆様方に、次の10年、さらなる進化のため、岡山市に必要な視点は何か、岡山市のアイデンティティーとは何か、岡山市民の「愛着・誇り」は変わりつつあるのではないかと、「誇れる」「憧れる」まちにするためにはの4点についてご議論、ご意見をいただきたいと考えております。今申し上げたことは資料1ページに記載をしておりますので、後ほどまたご覧ください。

それではまず、次期総合計画のコンセプト（案）、基本的な考え方等について説明をいたします。

2ページをご覧ください。

次期総合計画の全体コンセプト（案）についてです。

まず、資料左側、現行の第六次総合計画についてでございます。

第六次総合計画では、未来へ躍動する桃太郎のまち岡山を基本目標に掲げ、力強さ、住みやすさ、安全・安心を3本柱とし、あらゆる分野のレベルアップを図り、まちに変化を創出し、都市の総合力を高めてまいりました。この間、市内総生産や民間投資が他の政令指定都市と比べて高い伸び率を示すなど、経済指標は上昇し、都市として大きく成長して

まいりました。

他方で、資料左下、時代潮流においては、人口減少、少子・高齢化のさらなる進展や、ウェルビーイングへの関心の高まり、価値観の変化などが見られます。また、市民ニーズでは、にぎわい・活気やまちへの誇り、つながり、交流、多様性、包摂性などを求める意見が多くなっております。

そうした中で、今後、岡山市のまちの進化に必要なものは何かを整理をしていきたいと考えております。

まずは、これまで進めてきた取組を着実に継承発展させ、暮らしの質の向上と、都市の成長、活力の創出、安全・安心の充実に取り組み、さらなる総合力の向上を目指していく必要があります。その上で、さらなる進化のために、愛着と誇りの醸成にも取り組んでいくことが必要と考えております。

これまでも、都市ブランドの確立を通じた愛着と誇りの醸成に努めてまいりましたが、民間の調査では、愛着や誇り、認知度は政令指定都市の中で低い位置となっております。一方で、ボランティアが高い評価を得ているおかやまマラソンや、ファジアーノをはじめ昨今の岡山のスポーツ界の活躍と盛り上がり、さらには歴史文化、自然などの地域資源を生かし地元を盛り上げたいという地域の熱意の高まりなど、人や地域とつながりたいといった意識や地域を大切にしたいという機運が高まってきていると感じられ、岡山のまちだけでなく市民のマインドが大きく変わりつつあるのではないかと考えております。

こうした地域への愛着や誇りは、幸福度が高く豊かな暮らし、そして活力があり持続可能な地域づくりの原動力となると考えております。それをより高めていくためには、岡山のよいところや課題、特質などをまずよく知ることが重要だと考えております。そして、それを地域やまち全体で共有し、磨き上げ、国内外に積極的に発信していくことにより、自らが暮らす地域そして岡山全体が誇れるまちになっていくものと考えております。そして、その誇りが人や企業を引きつけ、呼び込むといった、憧れられるまちにつながっていくのではないかと考えております。

これらのことから、次期総合計画では、市民を守る安全・安心の充実を土台に、地域づくり、まちの原動力である市民の愛着と誇りの醸成を図りつつ、暮らしの質の向上と都市の成長活力の創出の2本柱の好循環を加速させてまいります。そして、市民一人一人の希望がかない、活躍し、人や地域とつながるよう、多様な選択肢や価値を提供する人中心のまちづくりを進めることにより、誇れる、憧れのまち、幸せを感じられるまちの実現を目

指していくべきではないかと考えております。

次のページに移ります。

今申し上げたことも踏まえて、策定の趣旨を整理しております。こちらはまた質疑の中等でご覧ください。

4ページをご覧ください。

計画策定に当たっての基本的な考え方のうち、計画の構成などについてです。

計画の名称は、岡山市第七次総合計画といたします。

計画の構成及び計画期間は、現行計画と同様、長期構想が10年、中期計画が5年の2層構造として、それぞれ議会の議決を図るものといたします。長期構想では、岡山市の目指すまちの将来像や基本的な視点を示します。中期計画の分野別計画では、長期構想を実現するための政策分野別の目標や施策の方向性を示し、区別計画は、地域の特性を踏まえた地域づくりの基本的な方向性を示します。

5ページをご覧ください。

計画の策定体制についてです。

次期総合計画の策定に当たり、本基本政策審議会に諮問し、審議、答申を受けるものといたします。また、次期総合計画への幅広い市民意見の反映を図るため、ワークショップやアンケート等の意見を踏まえながら策定してまいります。

次に、計画の推進についてです。

P D C Aサイクルの考え方に基づき、中期計画において成果指標とその目標値を設定し、定期的に評価検証してまいります。

次に、計画策定に当たって留意すべき事項についてです。

市民と目標を共有し、協働してまちづくりを進めるため、簡潔に、分かりやすさを重視して策定してまいります。

6ページをご覧ください。

策定スケジュールでございます。

7年度中の策定に向け、基本政策審議会を本日を含め3回開催をし、11月の答申案を受けて、素案を公表いたします。その後、パブリックコメントを実施し、令和8年2月に議案を提出、年度末の策定を目指してまいります。

7ページをご覧ください。

先ほど説明いたしました次期総合計画のコンセプト案を踏まえ、次期計画に掲載する政

策をキーワードとして整理をいたしました。

また、その次の8ページでは、政策体系のイメージとして、計画の基本的な視点4点と基本方向をお示しをしております。

私からの説明は以上でございます。

○阿部会長 ありがとうございます。

ただいま事務局から次期総合計画策定に当たっての基本的な考え方、全体のコンセプトについて説明がございました。事務局から問いかけがありました次の10年に必要な視点などの4点を含め、委員の皆様それぞれ専門分野をお持ちだと思いますけれども、専門分野にかかわらず、幅広く大局的な観点から本日はご意見をいただければというふうに思っております。よろしく願いいたします。

また、会議自体は1時間半ほどで終わることを目標に、密度の濃い審議を行いたいと考えておまして、事後の確認や個別の状況等については後日事務局のほうから回答させていただきたいと思えます。

満遍なくご意見を伺いたいと思えますので、まず一巡、それぞれ順番にご意見を述べていただければというふうに思えます。恐縮ですが、私の右手のほうから、岡山委員からまず最初ということで、順番に進めてまいりたいと思えます。よろしいですか。

○岡山委員 はい。

○阿部会長 それでは、時間にしますと、11名ですから、5分ぐらいですかね、取りあえず。

はい、お願いいたします。

○岡山委員 今説明がありましたような新しい総合計画の組立てがありましたが、こういうことの上、今日それから問われたことを考えてみますと、新しい概念的に言うと、言葉としては新しくないんですが、ロハスという言い方が大分前に、はやったことがあります。基本的に、健康的で持続可能な生活スタイルということでロハスという言葉が一時大分使われたことがあるかと思えます。イメージ的にはそういうまちを目指すべきではないかと。大規模再開発でやるような、東京のまねしたまちづくり、福岡ぐらいな

ら、この前も何かえらい大きなビルが建ったりして、そんなこともできないこともないですが、岡山でそれをやったところでできないし、してもあまり意味があるものでもないように思います。もうちょっと違った視点、東京の再開発とかそういうものとは違った視点、ライフスタイルからして違うんだと、我々はそういうライフスタイルを持ってるんだというところをアピールしたほうが、誇りとか自慢みたいなものにもつながってくるのではないかなと思いました。

そういう意味では、今までやってきた、大森市政になってから、人中心だとか、中心市街地の再生だとか、公共交通だとか、協働事業も始めましたし、それからコンパクト・アンド・ネットワーク、これらの概念が大体それに包摂されるのではないかなと思うので、今の延長線上にある概念としてそういうのを打ち出したらいいかなと思っていて、これまた古いんですが、ポートランドというものを一時ちょっと岡山市も勉強したことがあるかと思えます。市長ご自身もポートランドに行かれたかと思えますが、ポートランドというのがまさにそういうロハスなまちという概念を打ち立てていて、全米一住みたいまちになると。

基本的に、ポートランドというのは岡山市とそんなに人口が変わるわけでもないし、そんな状況を見ても特別、LRTによるまちづくりとかをやってますけど、そんなに岡山と公共交通の分担率が変わるわけでもなさそうですし、手が届く範囲にあるようないい見本ではないかと思えますが、ちょっと古いというか、一時ちょっと言っていたことがあるので、今さらというのもなんですけど、やっぱりそれが本当に根幹的なものではないかなと思います。ポートランド流というようなものを市民が誇りにしてるというようなところからしても、まさにそのお手本になるような感じかなと思いました。

そして、地産地消とかリサイクルとか環境とかの面でも、あと経済循環、自分のところの製品を誇りにして使うとか、自分とこでつくった地ビールを自慢するとか、そういう自分のところの製品、全国チェーンではないようなものを愛するというような、それがまた経済循環にも資する、経済的にも資するのではないかなと思っております。一時は岡山大学とかポートランドとも結構付き合いがありまして、阿部先生も関わられたかと思えますけど、ポートランドから大学の先生とかが来て、岡山大学のアゴラに書いた言葉で、岡山の新しいストーリーが始まるっていうような言葉を書いたんですけど、それって非常に印象的で、そういう新しいストーリーにそういうのができたらいいなというふうに思いました。

それでいうと、今までやってきたこと、西川緑道公園沿いのまちづくりであるとか県庁通りのまちづくりであるとかというのも人中心のまちづくりにもマッチするし、本来、西川緑道公園はもともと車を全部止めるはずだったのを、車の通行を残したという側面もあります。できるなら車を止める方向に近づけていきたいなと思いますし、できないなら、週1回の交通規制ということのを定常化するというようなこともあるかと思います。

それから、賑わいがそれなりに出てきたとはいえ、まだいまいちインパクトがあるほどではないので、そこで街角コンサートみたいなものをしょっちゅう開くとか、そういう手法もあるかと思います。かつて取材した中では、川崎市とか、例えば東京の上野公園とかも、コーナーごとに決めて、コンサートを登録して募集して、コンサートとか大道芸の人が次から次へやっていくようなことも行われておりましたが、そういうところを西川とか県庁通り付近で下石井公園化というのをやるということも一つの案かと思いました。西川緑道公園でもやってないこともないんですけど、なかなかしょっちゅうというわけにはいってないのかなというふうに思いました。

それから、西川緑道公園なんかでいうと、晴れの国というような特徴を生かして、カフェテリアが並ぶようなイメージのまちにしたらいいいということは、これは以前、政策投資銀行の岡山所長だったホウジさんが言っておられたことであります。カフェテラスというものは、やっぱり晴れの国だからこそできるような、なじむことかなというふうに思いました。

それから、公共交通に関しては、もちろん路面電車の延伸とか、今ある計画、地域公共交通計画というのをこの前つくりましたけど、非常に一歩前進というか、大きな前進になったかと思います。この前、金曜日にNHKでバス再編のこともやりましたが、前向きな話として捉えて、15分に1本、幹線道路、JRと幹線バスは15分に1本というところを打ち出したというのは非常に意味が大きいかと思います。これをぜひ実現するために、特にJRとの接点ってまだないのではないかなと思いますが、JRも含めて、なかなかそこまで手が回らないかもしれませんが、JRの増便ということも含めて、利便性向上ということも含めて考えていってもらえたらなと思います。

あとそれから、ここのあれにもありましたけど、ワークショップを続けてきて、結局浮かび上がってきたのは、この前も言いましたが、つながりとかを求める若者たちの声というのが非常に大きかったということ、それとやっぱり基本的に若者と地域の企業とかをいかに地域をつなげるかということがこれからの大きな課題かなと思うので、そのときに、

ちょっと最近動きが出てきたのが、ユースセンターというものをつくろうという動きが、主に民間レベルですが、出てきて、岡山市内にも奉還町にあったり、それからこの前も井原市にできたり高梁市にできたり備前市にできたり真庭市にもできたりして、次から次へできています。そういう若者が集う場所をつくって、地域と結びつための取組をするというようにすることも一つの案だと思います。つながりをつくるということは、企業家同士のつながりとかでもイノベーションにもつながりますし、あと外国人の高度人材とかも企業とつながるといようなことが非常に重要なことというふうに思っております。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは取り急ぎ、小野委員さん、お願いできますでしょうか。

○小野委員 今、4つの命題をいただいとんですが、これは分けずに1個ずつ、分けずに統括でいいんですか。

○阿部会長 統括で結構です。

○小野委員 統括でね。分かりました。

私は、いつも言ってますように、今、岡山市の連合町内会の役員をしております。と同時に、地元の南方地区というところの連合町内会長と、それから野田屋町1丁目というところの単位町内会長もしております。

それで、私が考えてるのは、今、野田屋町1丁目の町内会で、ごく小さい町レベルの話をするんですが、先日、去年の暮れの話なんですけど、葉っぱがいっぱい落ちると、電車通りに。桃太郎大通り沿いですね、あそこにいっぱい葉っぱが落ちると。黄色くなっているんじゃないのと言ったら、いや、とにかく滑るんだって。落ち葉の上に雨が降って滑る。自転車でも滑るし、歩いている人が滑る。ですから、あの通りはまだ住んでる人がいますから、現在住んでる、会社だけだったとしてもかく、住民がいるわけなんで、そしたらやっぱり掃除に困ると言うんですよ。毎朝毎朝、朝起きたら山のように葉っぱが落ちて困るんだなんてことで、何とか市のほうへ掛け合ってくれんかな言うから、役所のほうへ電話してその話をしたんです。

そしたら、きれいだからいいんじゃないのみたいなことで、はぐらかされてしまったん

ですけど、私も自分で考えてみりゃ、学生時代に東京の神宮外苑ってきれいですよね、ポプラがあって。それから、岡山大学にもポプラの並木があってきれいなんです。でも、滑らないですね、あれは。葉っぱに何か筋が入ってるのか知りませんが。だから、そういったことを考えると、お役所が考えることとそれから私たち地元住民が実際困ってることで随分そこがあるなという気はするんです。そういったこともうってとして頭の中に置いておいてもらいたいと思うんですけど、きれいだということだけじゃなくて、そういった困ったことの困り事の一つにもなってるというのが現状なんです。

岡山のいろんな意味でアイデンティティーであるとかポテンシャルであるとかは何があるかという、やっぱり岡山といたらイコール桃太郎しかない、これに尽きると思うんですよ。桃太郎伝説に始まって、吉備の王国があり、それから古墳もいっぱいあるわけです。日生ってところは日が生まれるところ、日いずる国であって、そして岡山へずっと、岡山の上空を太陽が通っていくんですね。まさにその下に古墳がそれぞれ点々とあって、岡山の中でも吉備の王国って、谷一さんは笑ってるけども、岡山っていうのは吉備王国が確かにあったに違いない。どこにあるのか分からないけど、吉備の王国の王様のお墓がどっかにあるだろうな。そんな中で、そういったポテンシャルを生かしていく。

それから、今、瀬戸内芸術祭というのをやっていますが、これもインバウンドの影響ですよ。まさに外国から観光客がいっぱい来てるわけです。また、この9月には岡山芸術交流というのが行われるわけですから、こういったイベントをすることによって、岡山の活性化ってさっきの話の一つに尽きると思うんですよね。音楽祭もそうです。音楽のイベントでジャズのイベント、10月でしたか、岡山市の音楽祭ってのをやっていますし、ああいったイベント事をして、そうすると若者がものすごく燃えるんですね。有名な人があそこの下石井公園なんかに来てたら、ものすごい。有料で座る席もあれば、無料で橋のほうで見れるのもあるんで、私も近くですからよく行くんですけど、いろんなイベントをやって楽しいとこだなと思います。やっぱりそういうまちの活性化ってのは必要。

1つ残念なのは、あそこに無料でできるステージがあったんですけど、それを壊しちゃって、あそこは今ああいう絵画、絵の施設ができてしまったんですけど、あれはあれでいいとして、ああいったすぐできるようなステージがなくなってしまって、ちょっとこれは寂しいです。すごくお金をかけて大ステージを組むというのはやっぱりいろんな意味で問題があると思いますから、お金もかかるし、それから撤去するのは当然お金もかかるわけですから、そのときしかできないという、いつでもできるというわけにいかないんでね。

だから、そのあたりのことも、特設じゃなくて常時できるようなステージを考えてもらったらなと思います。

あそこの野殿橋のところに、小さなステージですけど、今できてるんですよ。あれで結構地元の人やいろんなところから集まっているいろんなイベント事、西川緑道公園のイベントをして、あれいいですよ。今、岡山委員が言われたように、あそこはもともと車を通さないようなことを考えてたんですけど、通してしまって、その後、やっぱりあそこを片方だけでも、桃太郎大通りから西川のところ、今の県庁通りですかね、あの辺りぐらいまではせめて歩行者優先、歩行者道路にしてしまうってのはありだなと思ってます。時々、今でも歩行者優先のあれで止めて、ああいうイベント事をするというのはやっぱり地域の活性化にもなるし、若い人がいっぱい集まってきてるんですよ、見てたら。だから、お金を使わずにゆっくり遊べる、地域のためにもなるし、ああいったイベント事はぜひしてもらいたいと思います。それによって、岡山が自分たちが誇れるまちであり、そして憧れるまち、愛着ができて誇りもできるというふうなことに尽きると思います。

以上でございます。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは続きまして、齋藤委員さん。

○齋藤委員 自分の担当のところにとらわれず、広い観点からと言われましたが、まずは医療について申し上げます。前回は申し上げましたが、私のイメージする岡山市は、やはり医療の資源に非常に恵まれている地域であるということです。医療もそうは言っても、2040年に人口もピークアウトするということで、既に病院のベッドをどんどん減らすような撤退戦に入っているのも事実です。先ほどのロハスのような前向きな響きはないのですが、人口減少、それから高齢者が増えていくという中で、一番いい形で医療・福祉・介護を提供できるということを行える、そういうリソースが岡山にはすでに備わっていると思います。実は以前に、岡山市内の同規模の大きな病院が、地域医療連携法人っていう新たにできた法律の枠組みを利用して、実際に大きな病院は造りませんが、2,000ベッドぐらいの病院連合体を組み、それぞれの病院の得意なところを、妙に競合しないで生かし合うというような形で、今後の共存、それから市民への提供ということを考えていた時期があります。そういうことも上手く日本のモデルになるような形でできれば、これだけもと

もと医療資源の豊富なところですから、アイデンティティーとまでは言いませんけど、岡山市の誇り、特徴の一つというふうになるんじゃないかと思っております。

それから、さっき岡山大学との協力の話が出ましたが、私も以前、岡山大学に勤めていました。今の岡山大学のほうは田中先生の方が、詳しいでしょうけど、昨今、学都おかやまっというキーワードを盛んに唱えています。学「都」っていうくらいですから、岡山県全体というよりは岡山市のようなイメージを持っておられるんじゃないかと思います。大学のほうが学都っていうのですから、岡山市のほうも学都をアピールしたらよいのではないかと思います。岡山大学は、言わずもがなですけど、旧制の第六高等学校と旧制の岡山医科大学など、先行する学校が一緒になってできた経緯があります。一時期は中国の帝国大学になろうかという時期もあったぐらいですから、中四国の結節点にある総合大学ということで、それを上手に、学都ということで、岡山市と、普通で考えられるよりも、もう一步踏み込んだようなコラボレーションをしてはどうでしょうか。これも昔からの高等教育の伝統があるっていうところを市の一つのアイデンティティー、誇りにすれば、住んでいる人も、たまたま生まれて育っているだけかもしれませんが、非常に学問の薫りの高い、医療もある、すてきな街に住んでるっていうことになるんじゃないかと感じております。

以上です

○阿部会長 ありがとうございます。

かなり急いでおりますけども、続いて嶋田委員さん。

○嶋田委員 嶋田です。

ここ10年ちょいぐらいで本当に岡山のまちってすごく変わってきたと思います。まちなかに住むっていうことがどんどん加速して、逆に言えば、一度学校がなくなった、小っちゃくなっていったけれども、今度は子供たちがまた増えてきてどうするという問題もあるかと思いますが、まちなかがきれいになっていくというのは、岡山の駅前なども前も言ったかもしれませんが、顔でもあり、やっぱり岡山っていう、このレベルの都市であれば、いい顔というか、迎え入れる立派な顔も欲しいわけですけども、いかんせん再開発がぼんぼんぼんぼん計画があって、止まっているというお話も前回させていただきましたけれども、ただ、きれいにしていけないといけない場所はやっぱりある程度はきれいにさ

れるべきであるし、それが再開発であれ民間であれ、きれいになっていくまちというのはやっぱり愛着もできてくるまちではあると思います。

ただ、やっぱり歴史というのを、アイデンティティーっていうのは当然のことですけども、歴史があり、それを踏まえてちゃんと理解してアイデンティティーっていうものが確立されていくんだと思うので、ごめんなさい、話を取り留めもないかもしれませんが、先ほどから西川緑道公園のお話も出てきました。車線をなくそうという計画があったけれども、いろいろあって今の形ができて、ただ、西川緑道公園というのは本当に、よそでは見ない、あんなきれいな緑道公園になって、すごい誇れるものだと思います。ただ、今の若い人たちって、あそこでイベントをやって、わっと楽しんでいらっしゃるけれども、どんだけ先人が苦勞してこの西川緑道公園にしたかっていう、歴史とまではいかないんだけど、生い立ちというか、できてきた経緯っていうのは、もしかしたら知らないかもしれない。

古墳のことも、本当は私個人もそこまでよく知らないけど、本当にいろんな古墳のそれぞれ歴史とか、まだ解明されてないところがいっぱいあって、でも知らない人はたくさんいますよね。そういう岡山の古きよき歴史をもっと掘り起こしたのをちゃんと見える化して、それがみんなの目に触れて、そうなんだ、私はこういうところに生まれたんだっていうのがもっと理解できてほしいなと思いますし。

あとは、岡山の愛着とか誇りとか憧れるとかいう点数が非常に低いんですけども、この点数を上げていくには、若者が主役になって楽しんでいけるまちっていうのが一番だと思うんです。今の若い人って、経済も何となくちょっとは上向いてるけれども、いかんせん給料が上がらない。社会保険料ばかり高くなって、給料がちょっと上がっても手取りが逆転で低くなっちゃうっていうような、こういう時代に生活している若者たちって、自分たちで楽しむものはいろいろ工夫されてると思うんですけども、やっぱり無料で楽しめるイベントがあれば、すごい賑やかに出てきてくれると思うんですけども、そういうまちなかコンサートとか、さっき岡山委員がおっしゃったような街角コンサートですか、何かそういうものとか、西川緑道公園をもうちょっと常設化で何かイベントをやってるようなことが、岡山らしさだねこれっていうふうにできるまで、なれるまで成長していったら、すごく若者が元気になって楽しんでくれて、愛着も持ってくれてっていうふうにつながっていくのではないかなと思いました。

以上です。すいません、取り留めなくて。

○阿部会長 いえいえ、ありがとうございました。

それでは続きまして、高谷委員さん、お願いいたします。

○高谷委員 失礼します。時間が5分ということで、ちょっとあっち行ったりこっち行ったりすると思います。

○阿部会長 結構ですよ。

○高谷委員 すいません。今日の宿題ということで、キーワードだけを少しかいつまんでお話をしたいと思います。

この愛着度については、かなりよくなったほうだと思います。実は、商工会議所の青年部、YEGと言われるんですが、を中心に、今、岡山市さん、それから岡山商工会議所と一緒に、岡山市民の日の実行委員会というのをつくってございまして、岡山市民の日、6月1日という、この日だけをめでるのではなくて、特にその事業の中で、おかやま川柳というのをやっております。これは10年目になるんですが、実は今年は、今日ご出席いただいている三宅教育長にも非常に多大にお世話になって、今、小学校、中学校がかなり応募をしてくれてございまして、実は今年、4万2,979の川柳を応募いただきました。本当に倍々ゲームで今増えていってございまして、ローカル川柳コンテスト日本一が2年多分続いているような流れになっております。

このイベントというよりも、その実は内容を見て、やっぱり子供たちはスポーツであるとか、鬼であるとか食べ物であるとか、いろんなジャンルがあるんですが、本当にいろいろ、そういう川柳を通じて、多分親子で家で考えて応募してくれてるんだというふうに思っています。その中で、さらに子供たちへ教育的観点からも、今、大森市長がいろいろ取り組んでおられます吉備国とか、それから岡山の著名人というか、それから簡単に言うと文化歴史を子供たちのキーワードで、もう少し教育の中に入れていく。僕は副読本があるって聞いたんですが、調べてみるとなかったんですが、岡山の偉人とか歴史とかそういうものを別冊で組んでいくというのも、子供たちの教育というか郷土愛に、少しお休みの日に親子で訪ねてみてくださいとか、そういうもう少し見える化をするということも、この教育との連動というのは非常に必要じゃないかというふうに思いました。

それから、先ほど学都おかやまができました。これと少し関連するんですが、先日、岡山

市議団の皆さんとサンノゼに行っていました。皆さんご存じのG A F A、シリコンバレーを中心に世界の経済をというまちになっておるわけですが、やはりこの学都おかやまの中で、岡山の産業をもっともっと世界へという仕組みを行政の皆さんと経済界と一緒にやってつくっていくこと。今、地元企業もそうありますが、これだけ優秀な学生さんがいる中で、ベンチャーを出していくというのも、やはり岡山には、僕らも県外へ行ったら県外の人が、あまり個人の会社の名前を言っちゃ駄目ですか。いいですか。源吉兆庵のお菓子をくれるんですね。これも、僕らが東京に行って、例えばベネッセって岡山ですよ、これは岡山ですよって言えるのも、私たちにとっても岡山人にとっても誇りだというふうに思います。そういう部分で、やはり企業のレベルアップというのも市政としても注目をしていただければというふうに思っております。

それと、プロスポーツのあるまち。今、岡山商工会議所もプロチームと一緒にアリーナの問題で大森市長にいろいろご提言をさせていただいて、市長にもいろいろご発言をいただいております。まだ決定ではないんですが、このプロチームのためにも、アリーナ、またスタジアム、今、ファジアーノを含めて、こういうところも1つ大きなキーワードになってくるんだろうというふうに思います。

それから、今あまりメジャーではないかもしれませんが、岡山にはBMXの拠点があるということで、BMXだけではなくアーバンスポーツという一つの観点から、もちろん今ダンスであるとかいろんなカテゴリーがあるんですが、まちなかでの賑わいという部分では、BMXを中心としたアーバンスポーツというのも岡山のもしかしたらまたキーワード、また子供たちが街角でこういうスポーツを見て誇りに思ってくれるきっかけになるんじゃないかなというふうに思いました。

それから、ちょっとまた観点が違うんですが、この資料の中にも中四国ゲートウエーということが書いてあったわけでありましたが、中四国ゲートウエーという言葉もいいんですが、私たち会議所にとっても最近使う言葉が、瀬戸内ゲートウエーという言葉をよく使います。そういう中で、やはりこれから、これは10年というよりも、多分私が生きている間にはできない可能性が高いんですが、四国新幹線を含めて、四国へ向けての岡山が拠点であるということも含めて、岡山だけでなく、岡山を中心にもう少し広い目で今後岡山の立ち位置というものを考えていく必要があるんだろうというふうに思いました。

それからもう一つ、私もいろんな方が来られて聞かれます。フルーツ王国岡山って言われるんだけど、どこへ行けばいいの。某百貨店の地下に行ってくださいと言うわけにもい

かないわけではありますが、そういうところを含めて、フルーツと言いながら、もう一つこういう拠点をつくっていくということも必要ではないかなというふうに思いました。

それからもう一つ、公共交通、本当にこれは大森市長に感謝しておるんですが、私もこの前乗ってみました。北長瀬から妹尾まで、今、コミュニティバスというか、バスが走っております。今、実証実験ですよ。

○大森市長 いやいや、もう走ってる。

○高谷委員 これはまだまだ知らない人が多いと思うんですが、今、私もたまたま拠点が問屋町にあるんですが、このバスがあることによって北長瀬と問屋町が結ばれたというふうに思っておりますし、そこからまた広域に横の横軸、これは本当に素晴らしい。もう少し、これは余談ですが、PRしていただくのと、バス停が分かりにくいというのは言っておきます。

○嶋田委員 すごい小ぢんまり。

○高谷委員 はい、そうなんです。すいません、これは全然違う話で、あまり細かいことを言うつもり……。

○谷一委員 バス停が小さ過ぎるんだよ。もっと、小さくてもいいけど、派手な色にするとかね。

○高谷委員 すいません、これはちょっと余談の話で、すいません。

○谷一委員 いやいや、本当に。

○高谷委員 非常に素晴らしい政策でありますんで、こういうところをさらに、車がなくても生活できるまちの本当に第一歩だというふうに感謝申し上げたいというふうに思っております。

それと最後に、ぜひまた行政の皆さんにもお渡ししたいと思うんですが、今、大森市長

のこの期間の中で、以前から岡山1キロスクエアメーター構想というプランがありまして、これは私たちの大先輩がずっと岡山の課題、まずはこの1キロスクエアメーターが活性化しないと岡山の発展はないという中で、やっぱりこの4つの拠点、まずは岡山駅、それから今のシンフォニーホールを中心とした岡山城、後樂園のゾーン。それと逆に、今まで天瀬が空白だったんですが、ここへ来て文化創造の芸術の拠点ができた。それともう一か所が、この後ろにあります岡山市庁舎の建て替えを含めての、このトライアングルの中の活性化という一つのポイントはぜひさらに加速をしていただければというふうに思っております。

すいません、取り留めなくキーワードばかりお話をしました。よろしく申し上げます。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは続きまして、濱西委員、お願いいたします。

○濱西委員 ちょうど今週木曜日に韓国から、30ぐらいの大学が連携して、産業界と連携して、そういうネットワークがあるんで、それがこちらに来られるんですけども、何で来られるんですかと聞くと、韓国でもだんだん今、少子化と地域の衰退、経済の衰退が見えてきて、課題先進国である日本に学びたいという形で幾つか回られるようですけども、来られます。

岡山市の次の10年を考えて、あるいは韓国に言うことも同じなんですけど、やはりとにかく若い人と、あと特に若い女性の方を中心にしたまちづくりをしないといけないでしょうということを韓国側にも言うつもりです。日本は本当は30、40年前にそれが予測できたので、やってないといけなかったんですが、あまりできていないので、ややもう手後れになってきてる。少子化が止まる雰囲気はないですね。韓国はもしかしたら、韓国はもっとすごいんですけども、ただ、ドラスチックなことをかなりやる国でもあるので、まだ間に合うかもしれないですねということでアドバイスをすることになっております。

岡山市におかれまして、僕は非常に、さっき市長がおっしゃられてたように非常に評価をしているんですが、まちづくりであったり、じゃあ次の10年はと言われると、同じように、いよいよ若い人だったり、特に女性を中心にしたと、前回ありましたように、どんどんさらに若い人は出ていくでしょうから、岡山市がある意味防波堤にならないと、岡山

県全体からもどんどん人が出ていこうと思っておりますので、ぜひ岡山市にはそういう政策を取っていただきたいと。女性中心にするのか、若者中心にするのかという反感もあるかもしれませんが、人口構成からすると、放っておくともう完全に高齢の方中心になります。地域だったり、あるいは既に企業の要職に就かれている方は男性がまだまだ多いです。自然にやっているとどうしても高齢の男性中心の地域になり企業になりますので、かなり意図的にパフォーマンスに是正をしないと、それをやっつてちょうどバランスがいくらいになるはずですので、かなり意識的にそういったことをしないと、普通に自然にやっつるとどんどんどんどん、若い人出ていってください、女性出ていってくださいというふうな形に見えてしまうので、そうなってしまうので、意図的にぜひやっていただきたいなど。他市のことはあれですが、私の感覚では、総社市はかなり若い人をいろいろイベントだったりいろんな行事だったり実行委員会などかなり学生を入れていっつてるところがあります。

ちなみに、日本の大学も今、次の7年間の認証評価というのがありまして、そこでは学生が大学への経営参加、このレベルまで今は文科省が求めてきております。ですから、単なる参加ではなくて、経営レベルで若い人、学生を参加させないといけない。これはアメリカでは当たり前のことですが、日本では全然それができていないのでつてことです。だから、大学も今必死にそういったことをやろうとしておりますので、行政にもぜひ、例えばこういう場に若い人がいて全然いいと私は思うんです。委員会にもいろいろ意図的に若い方が来られてつていうぐらいでちょうどよくなっていくのかなと思っております。

そのためには、もう一つは、10代の方、20代の方への調査ですね。これは前回に引き続きですけど、やはり調査、調査、調査をしないと、何となくの印象論だったり、あるいは議会の何となくの意見に呼応してませんので、EBPMという言葉もありますけれども、もっともっと行政は、これは岡山市だけではないですが、もっと調査をされて、例えばランキングのやつもこういう民間がやっつてるようなものを使わないでもいいぐらい、いろんな調査を、そんなにお金はかかりません、サンプリング調査ですので。あと、調査会社を使えばそれほど大変なことでもないですので、ぜひもっと調査をなさつていただけるといいかなと思います。

あとは、関連しますけれども、もう一点だけ、ランキング、今日もお配りいただいておりますけど、これは200人ぐらいの、一応社会学で調査もやっつておりますので、200人ぐら

いのネット調査です。詳細もよく分からないものですので、非常に信頼性は低いと思っていただいて結構だと思います。ただもちろん、全国的な調査をしてるのが、ほかにはまだないので、これ以外になかなか手がないというのも分かるんですけども。

あと、誇りとか愛着ってのは非常に難しい概念ですので、これで何を意味してるかっていうのは受け取り手にかなり左右されますので、これらを信頼するよりは、あるいは政策の軸でこれが上がった下がったでやってしまうと非常に間違ってしまうので、やはり自前で調査をとということですね。ぜひ、特にこの今日の調査のデータは20代以上になってますから、10代が全然分かりませんし、10歳刻みっていう非常に粗いものですので、前回私も市にお願いしましたが、やはり1歳刻みで詳細なことをされればされるほど、一体何を若い人が望んでるのか、若い人だけじゃないですね、本当に今、市民が何を望んでるのかってのが非常によく分かると思いますので、ぜひ調査をしていただきたいなと思います。

最後に、もし仮にこのランキングを信じるのであれば、現状、愛着というのが、あるいはアイデンティティーも非常に低いと、政令指定都市の中で低いということになると。これを文字どおり受け取るのであれば、やはりこれまでの政策というものがそこを涵養するものにあまりなっていなかった可能性があるということですね、文字どおりこれをそのとおりに読むのであればですね。私は読みませんが、もし仮に読むのであれば。ですから、これまでの政策の延長、発展延長でいいかどうかというのはやはり問われる必要があるだろうと思います。岡山市はもちろん頑張っておられるんですけども、ただ、全自治体が頑張っていますので、こういった相対評価になりますので、非常に難しいところがあるのかなと思います。

もし本気でこういったランキングを上げるとするならば、かなり岡山市独自のものをなされる必要がある。例えば、広島は平和都市という強烈なアイデンティティーがあって、それはもちろん学校でもいろんなことをされてる。長崎もそうでしょう、京都もそうでしょう。そういう強烈な、岡山にももちろんそれらはあるんですけども、ただ、じゃあ広島に勝てますかと。京都に勝てますか、歴史、文化で京都に勝てますかと。

だから、こういったランキングは本当に比較になってきますので、岡山はもちろん頑張っているんですけども、もっと独自のもの、岡山にしかないものというものを何とか見つけ出さないと、ずっとこういう順番は変わりませんので、それはネガティブなものでもいいと思います。いろんな負の遺産でもいいし、いろんな公害の経験かもしれない、ハン

セン病のことかもしれません。いろんなネガティブなものでも構いませんので、何か岡山市にしかないものというものをしっかり見つけ出さないと、なかなかこういったランキングは上がらないのかなと思います。上げる必要は僕はないと思いますが、仮にこういったランキングを重視するのであれば、相当独自なことをしないとですね。みんなもう今比較できますので。岡山でももちろんやってる、必要条件かもしれません、ランキングを上げる十分条件にはならないので、かなり独自なものを探されるといいのかなというふうに思っております。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは続きまして、西田委員さん、お願いいたします。

○西田委員 失礼いたします。

ここ10年、ものすごく岡山市は都市化してきてるなど、私、市民といたしましてすごく感じております。一時は空洞化になって、市内がどうなるのかなと思っておりましたが、また岡山中心地に帰ってきたいなという若者が増えてるんじゃないかなと思っております。

そして、私たち婦人会なんですけど、婦人会は地域での密着型で、若いお母さん方とか親子で楽しむイベントをたくさんしております。そして、それをすることによって、地域ではこんなことをしてるんだなというのを分かっていたらいい、次の世代につなげていけたらいいなと思っております。

そしてまた、おかやまマラソンですか、そのときにも縁の下の力持ちで、チラシを2万戸ぐらい、婦人会の高齢の者が一生懸命封入して、少しでも市のため、市民のためになったらいいなと思いながら活動しておりますので、これからもよろしくお願いいたします。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、谷一委員さん、お願いいたします。

○谷一委員 まず、この資料はよくできてますよね。全体コンセプトの案って、2ページに第七次総合計画の新コンセプトがちゃんと、いろいろ難しい言葉を連ねて吟味してとい

うのは実際にやる場合には必要だと思いますけど、この2ページの右側みたいに新コンセプトが一言できれいに表されているというのは大変アイデアとしてはいいと思うし、市民に分かりやすいですね。第七次総合計画はどうなんだという、新しいコンセプトはどうなんだというのが一目で分かる、聞いて分かるというのはやはり重要なことだろうと思いました。これはよくできてるように思います。

今日、実は倉吉から帰ってきたんですね、朝。先ほどもお話ししましたが、一部のかたに。9時32分か何かの倉吉発のJRで出て、4時間かかるんですよ。智頭急行に特急に乗って、上郡で乗り換えて岡山まで帰ってくるんですが、4時間。新幹線で岡山から4時間っていうとどこまで行けるか、西に行っても東に行っても。新幹線の乗車時間による日本地図っていうのを作った人がいまして、ものすごく遠いところが近くなって、岡山を中心に作るとですね。しかし、そうでないところというのも随分やっぱり出てくるっていうのを実感しました。

ただ、倉吉って、やっぱりそうだからこそかもしれませんけど、緑は豊かで水はきれいで、心洗われるところなんですけど、何で倉吉に行ったかという、日本で最後の県立美術館が開館しまして、それを拝見に、館長に言われて拝見に行ったんですね。そしたら、アンディ・ウォーホルのこれのあれが3億円なんですよ。県民にかなり批判が出まして、あんなもの売ってしまえ、何で倉吉にアンディ・ウォーホルのこれが3億円もかけて必要なんだっていうような。でも、アンケート調査をずっとやってるアンケートの結果を聞いてみましたら、そういう先鋭的な声を大きくして言う人もいるんだけど、一般の県民の意識は大分違う。

それと、びっくりしたのは、売店にこれを売ってるんです。その3億円のミニチュアを段ボールにして売ってる。中にクッキーが入って、600円で売ってる。これ、土産でクッキーを食べた後は机の上にしばらく置いて、見ようと思うんですが、批判も含めてそれを上手に話題性の中で取り込んで、それはもういろんなことをすれば当然批判が出てくる。でも、それをだからといって萎縮するのではなくて、上手に取り込んで広報に生かすというのは、これを見てもよく分かるように、いいじゃない。ちゃんと厚い袋に無料で入れてくれるんですよ。こういうところの配慮。余分な話ですいません。

広島に行きましたら、数日前に広島に行ったんですが、電車が2階に上がってるんですよ、駅ビルの2階に。あそこは新幹線から出たところですがすぐ電車に乗れるように、まだ実際には運用されてません。6月の初めぐらいですか。

○岡山委員 8月。

○谷一委員 8月ですか。にはそれができるといふ。でもそれでも、いや、便利にはなるんですが、賛否両論あるんですよね。下に降りて今までの電車を使っていたら利用していたお店とか商店街とかそういうところにとってみると、新幹線でどんどんインバウンドのお客がみんな2階から電車に乗って宮島に行かれてしまっはというふうなものもあるので、やっぱり施策には表と裏があつてといふのは随分広島でも感じました。

岡山も、苦勞して電車が中に入ってますので、私は希望的観測からいへば、もうちょっとJRに稼いでもらつて、駅ビルをどんと大きなのを造つて、そこへ路面電車が、地下でも1階でも2階でもいいです、路面電車が入るような、しかもその路面電車が巡回してあつちでもこつちでも行けるようになればいいんじゃないかなとも思つたりしておりますが。

あとは、コンセプトで、先ほどからもありましたが、愛着と誇りの醸成つていふのがありますよね。これは非常に、あまり順位がそれほど高くない、今までそこまであまり意識しなかつたからかもしれませんが、これはやっぱり重要なことだと思ふので、愛着と誇りつてのは何だつていふと、やっぱりこれは文化資源なんですよ。市長も一生懸命、古墳からいろんところでやつておられますけれども、岡山に誇れるものといふのをやはりもっと、あるのだけれど市民が気づいていない、そういう部分は大いに強調して、僕はげたを履かせる必要はないし、底上げする必要はないし、先ほど、京都に勝てるのかとかいろんな話がありましたけど、勝とうと思わないでもいい。でも、岡山にもこういうものがこれだけありますよ、だからどこに勝つ負けるではなくてといふ提示といふのは真摯にこれからやつていっていいんじゃないかといふのがあります。

それと関連して言いますと、ファジアーノの問題も出てますし、アリーナの問題もありますが、新幹線の駅から、先ほどから新幹線でございますが、新幹線の駅から歩いて行けるスタジアムといふのは、ほぼ可能性としては岡山ぐらいしかないんじゃないかといふふうに思ふ。だから、今ある競技場を、例えば陸上競技場と併用してますから陸連との調整もありますし、民間野球団体と野球場との調整もありますが、でもキーポイントは、あそこの下に何があるかなんですよ。下には弥生時代の大遺跡があるんです。弥生の大遺跡があるんですが、そんなに大したものはいません、恐らく。金銀財宝がざくざく出てくるような、そんな発掘にはならない。でも、ちゃんとした遺跡がある。これはでもちゃん

と、例えば昔、近藤義郎さんが月の輪古墳で三笠宮も呼んできてやったように、市民参加、住民参加の発掘を私はやればいいと思う。

アテネの国立考古学博物館というのは、下が大遺跡なんですよ、アテネですからね。どうしてるかっていうと、重要なところは残して、ローマ時代のカタコンベまで残して、厚いガラスの床を造って、そこを市民が通るんですよ。上からその下の遺跡がちゃんと保存されているのが分かるようになってる。重要なところは横から回っていくと、その遺跡へも地下へ降りて入っていけるように、そういうふうになっているんですね。津島遺跡の場合は、弥生の住居址より下には何もありませんので、それは重要なところがあれば残して、それ以外のところはちゃんと発掘すれば、これはその解決が一番早いんじゃないかという気がする。

だから、野球場をどうするか、陸上競技場をどうするか分かりませんが、少なくとも増設する部分は必要なところだけ、必要でないところまで発掘する必要は全くないので、必要なところ、極端に言えば柱穴のところだけ発掘して、壊してしまうところはちゃんと発掘して記録保存して、それ以外のところはガラスの床にして残して、いいじゃないですか。日本全国からファジアーノのサポーターがやってきて、岡山にある弥生時代の遺跡を見ることができる、そんなスタジアムがあったって悪くないと私は思うので、そういった形で発想の転換をして持っていけたらいいなというふうにも思ったりしております。

ちょっと講談が過ぎましたが、以上です。

○阿部会長 いえいえ、ありがとうございました。

それでは続きまして、田中委員さん、お願いいたします。

○田中委員 失礼いたします。昨年度はなかなか審議会に出てこれなくてすいませんでした。

そのときのお話とかもちょっと入れて話してもよろしいのでしょうか。それとも、あれは終わってるのでしょうか。

○北川政策局長 いえ、大丈夫です。

○阿部会長 いや、結構ですよ、結構ですよ。

○田中委員 分かりました。

私は3つほどお話ししようと思ってます。1つは岡山の特徴に関わる話、2つ目が自分の専門、自分の特徴といいますか、に関わる話で、最後に、私は東京出身なんですけども、東京出身者として岡山に住んでの実感のようなもの、このお話をしようと思ってます。

最初に、特徴については2点あると思ってます。それは、よく晴れるということと、歴史があるということではないかなと思ってます。

晴れるというところを生かしたら、屋外活動に強いというところが打ち出せますよね。例えばスポーツという意味でいけば、アリーナがくるという話がありましたけれども、映画のロケができる、フィルムコミッションという話もできると思います。晴れてるからロサンゼルスが映画の都なんですよね。そういった強みを生かすところを何か育てていくといいかなと思ってます。どうせだったら、単に晴れるだけじゃなくて、掛ける何か、掛ける現代テストとか、掛ける何か強みを加えて、それで特色ができるんじゃないかなと思うんですね。例えばアリーナに、文化と融合させた、スポーツを主題にしたフィルムライブラリーを併設するとか、そこでスポーツ映画フェスティバルをするとか、スポーツ小説や文学の図書館を造っちゃうとか、あるいは脚本を懸賞で募集して、ファジアーノとかシーガルズの撮影協力を得てスポーツの商業映画を撮るとか、掛け算作戦というものは岡山ならではのものがいろいろ出てくると思いますし、何ならアイデアを募ってもいいんじゃないかなと思ってます。

もう一つの、古代の歴史ですね。古墳銀座と呼ばれるくらいすばらしい資産があるわけですね。岡山大学の教員で「大学的岡山ガイド」という本を作ったことがあるんですけど、その中でも古代の資産の話をつぶりました。例えば、ポケモンGOができるんだったら、技術的に古墳GOとか作って、バーチャルに古代人や古代環境を浮かび上がらせながらゲームをして遺跡巡りをしてもらうなんていうのは、スタンプラリーよりもリアルでいいんじゃないかと思えます。これが世界初だったら、インバウンドにも話題になるんじゃないかなと思えますんで、デジタル都市って言葉が後のほうで出てきましたから、どうせデジタルするんだったらこんなふうに古墳を生かして、掛けるデジタルというのがいいと思えます。

私が仕事で訪れた久留米市の場合は、市内どこでもWi-Fiがつながりました。それに、特産品の繊維を使ったティッシュケースをボランティアが作って配ってくれたりして

ましたんで、やっぱりデジタルプラス何か特徴的な資産という組合せ方というのは久留米市に限らず私たちもつくれるところではないかなと思ってます。畳のへりを使った面白い工芸品とか、やっぱりここにもありますしね。でも、すいません、あれは倉敷ですかね。近隣の話だったりしますけれども、いいんじゃないかと思ってます。今のが特徴2点に関するお話です。

次に、自分の専門に関わることなんですけれども、これは3つあると思ってます。私は文化と健康をキーワードにした心理学の研究者なんですけれども、1つは共生社会をどうつくるかって話です。もう一つは少子化の話、最後に健康に関する話ということで、順番に言います。

多文化共生は、やっぱり努力が必要だと思います。ほっといたら、混沌とした世の中ができるだけかもしれないですね。岡山には、ちょうどいい民間資源、NGOとか財団とかが共生を目指した活動をしておりますので、そこに市が上手に補助を加えていけば、タイアップしていけば、結構成果が出ると思います。岡山の状況として、どんなふう外国人を受け入れてるのかとか、どんなニーズがあるのかとか、送り出しや受入れ機関にどんな機関が必要なかってことをちゃんと調べておられますので、そういったところの知識を上手く活用していったらいいかなと思ってます。調査が大事なのは本当にそのとおりなんですけれども、全部市ができなくても、外注するとか委託をするとか、あるいは連携するといったことで知恵は集められますので、そこら辺の目配りは使い道があるかなと思ってます。

私が参加してきた中で、コンベンションビューローのユニークベニューの案内企画というのがあるって、何年も行かせてもらって、市長さんのご挨拶もそのたびに聞いております。国際学会をお呼びするために、どういう観光資源が岡山にあるって、どんなふうに使ったらいいかって、こういう見学ツアーをほぼ毎年やってくれてまして、私も比較的参加しています。実際に学会の企画とか立てることがありますんで、そこで大いに役に立ってます。そうすると、本当にいろんな資源があるなというのが分かりました。中には、高過ぎて私たちの学会では使えないものもあるんですけどもね。例えば、岡山港から小豆島まで行って帰ってくる船の上でパーティーをすることとか、これは150万要るんで、うちの貧乏学会では無理だったんですけども、ほかにも神社でやったりとか美術館でさせていただいたりとかそんなのがありましたので、これらの活用をもっともっと推進していき、貧乏学会でも人は呼べますので、もうちょっと補助がいただけたら、全国の方に宣伝する機会

になるのかなというふうに思っております。

留学生の資源もたくさん大学にはありますので、そういったアルバイトの雇用とかPRへの雇用、例えば各国語にしてもらおうとかっていうところは大いにできる部分だと思っております。私のとこの前にいた韓国人の留学生も、日韓交流で県のお仕事を手伝っておりまして、もちろん市のお仕事も手伝ってくれると思いますので、ものすごくたくさんの国から学生が来てますんで、どうぞ資源として有効活用できればいいかなというふうに思っています。彼らも、自分の国と岡山をつなぐのはきっと嬉しいと思います。

少し前に、ウズベキスタンの大使閣下が岡山に来られて、企業の進出をお誘いするっていうワークショップをされてまして、講演会をね。私も参加しましたけれども、そのとき、岡大のたった1人いるウズベキスタンの学生さんが来てくれて、大使閣下が非常に喜ばれてました。その後、幾つかの企業が現地まで見学に行ってるんだそうで、こういう国際進出のための小まめな営みというのがありますので、そういったところに大いに応援をいただけたらなというふうに思ってます。

外国人のインバウンドを呼ぶには、まだまだ資源はたくさんあると思いますんで、特に参加型のイベントがよいと思います。私もコンベンションの企画でやらせてもらったのは、和菓子の練り切りとかいろいろ、あと、お寿司の中にいろいろ具を隠し込むやつとか、ばら寿司ですね、あんなのを作る体験をやらせてもらいましたけれども、そこをさるお寿司屋の店主の方が英語で解説されたりとか、工夫すればまだまだ呼べるものがあるなというふうに思っております。小規模でもいいと思います。少人数でも、自分が参加したという実感が大事ですので、岡山の資源は活用できるなと思ってます。

もう一つ、少子化に関するところです。少子・高齢化、子供が生まれなくて困ってるわけですけども、うちだけじゃないんですけれども、どこでもなんですけれども、先ほど、女性が都会に出ていっちゃうって話をされてました。若い女性がいなくなったら確かに子供も減ってしまうから、そこに危機感を持つってのは当然だろうと思います。今、大学でも、なりふり構わずと言ったら語弊がありますがけれども、女性の教員を慌てて増やそうとしてます。これは政府の方針、文科省の方針に則したものです。急激に増やそうとして、いろんなことをしてる場所なんです。

その中でも、子供の育てやすさというものが、イコールじゃないんですけれども、つながって語られることがあります。私は次世代育成支援室っていうところの室長をやったことも大学内であるんですけれども、要は子供が育てやすい職場というのは魅力的な職場で

すので、若い人が来ます。リクルート、すいません、会社名は忘れてください、人材募集会社ですかね、が大学生向けにやってた講演会の中で話を聴いてましても、今どきの男子学生の65%は育休に興味があるのだそうです。ですから、そういう若手に魅力があるというところを見せるということはとても大事なことになるつつありますし、そしてそういう男子学生が本当に育休を取ってくれたら、子育てにも意欲的になっていく若い世代が育つんじゃないかなというふうに思ってます。

さる岡山の企業の方に、何で岡大生は都会に出ていっちゃうんでしょうと、岡山に引き止めたいんですけど、どうしようって言われたことがあります。いろんなアイデアを提供したんですけど、そのうちの一つは、御社で男性育休100%にしたらどうですかっていうのを言ってみました。男性の育休を100%にするってのは、古い世代の方から見たら、ええっと思うかもしれないけれども、若い世代から見たら魅力的で、よし岡山で就職だという人が出てくるかもしれない。特に女子には人気だと思います。大谷選手だって、奥さんの出産のときに数日は休みを取りましたから。育休が駄目でも、産休くらいは100%にしてみたらいいんじゃないかと思うんですね。

じゃあ、産休、育休なんか取ったらキャリアが絶望的になるんじゃないかって、そういう心配な人はいるかもしれませんが、私個人は5か月の産休、育休を取って、今、普通の顔して働いてますから、いつかの空白というものをカバーできる仕組みを職場が持っていればいいんだと思います。ですから、勇気を持って100%だというふうに言えば、いろんな若者が、ここはいいなって言って、来るんじゃないかと、そんな話をさせていただきました。

それから、少し前の新聞に載ってたことなんですけど、隣の県のさる会社の女性役員の方が、程々の規模の会社のほうが活躍できますよと、だから女性は地方を選びましょうなんてことをおっしゃってたんですけども、確かに規模感があまり大きいと組織の中での動き方が難しくなりますので、ある程度コントロールが利く規模の会社とか、市役所もそうかもしれませんが、そこで活躍の実績を積んでもらえば、いいモデルができていくと思います。好例のモデルがあれば、いい例のモデルがあれば、後に続く人にとっては具体的な目標になっていくと思います。

それで次に、健康に関してです。

私は健康心理学という学問もやってるんですけども、心理学の知見を健康に生かす健康教育、心理学的な健康教育があります。これはなかなか市民の中にまだまだ浸透してな

いんですけれども、研究者としてはいろんな策がございまして、これ、うちの健康心理学会が作った「実践！健康心理学」って本なんですけれども、この中に、実際にやったら本当に効果が出るぞってものをいっぱい書き込んでありますんで、もしよろしければこういう策を取り入れて、健康心理学を使って市民を健康にする岡山市とかって、子供からお年寄りまでアピールするかなと思っております。研究者がたっぷりいますので、呼び集めれば幾らでもできると思っております。

最後に、私の個人の感想です。

私は東京出身で、大学生のときには筑波というところにおりまして、それから大学院生のときにシアトルというアメリカの人気ナンバーワンの都市、西海岸ですね、に住んだりいたしました。一番今ここ岡山が長いんですけれども、じゃあ東京とかと比べて岡山大丈夫かと思ったら、私はちゃんと魅力はあると思ってます。東京は自然が遠いんですけど、ここは自然が近いですから、私は山歩きが好きなんですけれども、とてもいいと思ってます。まちなかをマラソンする人というのも、もちろんたくさんいるんですけれども、トレイルランニング、トレランという山岳マラソンもありますんで、そしたら操山でもどこでも走ってもらったらいいと思います。

お年寄りの方も、すごい高い山じゃなくて低い山、操山的な、150何メートルですから、ああいうところを使えば十分自然に親しんで健康になれるので、実際、操山里山センターではノルディックウォークの講習会とかやってますから、上手く自然を使って、身近な自然を活用する、岡山っていうところは打ち出せるかなと思ってます。東京にいたら、とてもそうはいかないですね。

確かに、文化活動、コンサートとか演劇とかそういうのはちょっとは少ないかなと思います。でも、それだけが価値ではありませんし、むしろ自分が参加できる文化活動、神楽を踊るだとかああいうことだったら、むしろこっちのほうがやりやすいんじゃないかなというふうに思ってます。

シアトルは本当に暮らしやすい都市だったんですけれども、それは非常にグリーン、緑が多くて、エメラルドシティと呼ばれて、自然の中でゆったりできるところがたくさんあったからですね。バーベキューができることもいっぱいあったりします。それに匹敵するような環境がこの辺にあるかなと思うと、結構あるんですね、整備されてないだけで。ですから、自然の中で過ごして楽しくやりましようってなことを言えば、私はかなり快適な都市になっていけるんじゃないかなと思ってます。

つくば市は、あれは確かに人工都市だったんですね。最初の頃は、とても素っ気ない都市だと言われましたけれども、その後、努力に努力を重ねて、並木道ができたりとか、非常に人間的な雰囲気を上手につくっていったなというふうには思っています。ですから、最初の設定から何を加えるかはその後の工夫次第なんじゃないかなという気がしています。

東京に比べて岡山が規模が小さいってのは、逆にいいところもあって、やっぱり自分が目が届き、自分が活躍できるところがいっぱい見つかり、この程々の規模感を上手く生かしてほしいなというふうに思っています。自分の家を建てるのも絶対こっちのほうができますから、東京で一戸建てはものすごい大変です。私でも一戸建てを造れたので、やっぱりこういう手軽さというか、身近なところで手が届くものがいっぱいあるんだよという魅力はどんどん言ってほしいなと思っています。

大学生に参加してほしいという意見は、私はもっともだと思います。大学生はいろいろ気力と体力があります。知恵もやっぱりあります。岡山大学では、デジタルトランスフォーメーション、DXと略してますけど、DXにも大学生を使っています。DX部という部活がありまして、いろんなところへ参加していくんですね。決して工学部の学生だけではありません。いろんなところの人が来てるし、近隣の若者もどうも吸収しているらしいので、大学生はいい資源になりますし、彼らにとっても社会参加の練習ですので、どんどんやってほしいなというふうに思っています。

参加型ってのは、いろんなときのキーワードだと思います。自分がやった実感がするってことです。私は大学生の頃に古武道をやったんですけども、岡山城での忍者隊の活動を見て、いいなって思って、私も忍者できますかと言ったら、ええどうぞとか言われて、引退したらやろうかなと思ってるくらいなんですけれども、殺陣とかできるんですけどね、ちなみに。そういう自分も参加してこの何かを盛り上げるという実感ができるようなものに誘われるチャンスがいっぱい欲しいなというふうには思っています。

すいません、長くなりました。

○阿部会長 ありがとうございます。いろいろと多方面にわたりまして。

では、杉山先生。

○杉山副会長 いろんなご意見をお伺いしてて、それぞれとてもユニークなポイントが出てきたなというふうに思っています。

私も実は、学都おかやまというのはすごくいいスローガンだなというふうに思っていて、お二人の委員の方から学都というお話が出たんですけど、実は調べてみると、学都というのを最初に言い出したのは仙台市で、仙台市を挙げて学都というのを言ってるので、じゃあ仙台と戦って勝てるかなという、やっぱりこれはちょっときついだろうなと思います。京都もそうなんですよね、実は学都なんですけど、京都は別に大学に頼らなくてもほかに売る資源がいっぱいあるので、京都はあまり学都ということを表に出してないですが、やっぱり非常に強いんですよね。だから、まねをしないで、岡山市独自のものをつくり上げていかないといけないという、田中先生のそういうお話がございましたけど、そういうものを見つけていかないといけないだろうというふうに思います。

岡山市総合計画って、勝手に私が私案を作ってきたので、これを見ていただいたらと思うんですけど、第五次総合計画ってのは今から考えてみると本当に2、30年前の話で、水と緑が魅せる心豊かな庭園都市という、ガーデンシティというコンセプトが核になっています。ガーデンシティそのものの元のコンセプトといたら、これこそ百何十年前のイギリスの話なんですけど、渋沢栄一が日本に持って帰って田園都市線をつくったり田園調布をつくったというのがガーデンシティの元です。これは実はものすごく大切なポイントで、私なんかは岡山にずっと昔に住んでいたもので、西口のほうの某ホテルとかコンベンションセンターとかがあるところは、若者はちょっと立ち寄れない、とても危険なところでした。

○谷一委員 大昔ね。

○杉山副会長 はい。それから、西川沿いは、桃太郎通りから南は、とにかくあそこは行っちゃいかんというぐらいひどいところで、正直なことを言うと、このコンセプトが2006年ぐらいにできて、西川をもうちょっと何とかしようよという動きが生まれました。まちの中心にこれだけきれいな川が流れているまちってないんですよね。20年実際かかってやっと今日の西川というか、正直なことを言うと、個人的にあまりまだ見たくないものが残っています。将来あれ全部取り除いてほしいなと思うんですけど、おっつけそういう方向に行くんだろうというふうに思います。

それから導き出される結論は何かというと、私たちが今やろうとしてることもやっぱり20年後へ影響するんですよね。私はその頃もう生きてないかも知れませんが、とにかく

20年後に何かを残すために今動かないと何も起きないということなんだろうと思います。第五次では水と緑が魅せる心豊かな庭園都市という非常にきれいなコンセプト、岡山のいいところを表現しているのだらうと思いますが、第六次では大森市長さんの非常に強い意向で、あまりにも静的なスローガンになってしまっているものをもっと躍動する動的なものに変えたいとの強い意向がありました。その方針で真っ先に実行されたのが子育て支援ということで、待機児童をゼロにすることでした。最初、岡山は全国ワーストワンがほんまに解消できるのかなと思ったんですけど、多くのこども園ができたり補助金を出されることによって、あっという間に子育て支援の体制が整って、待機児童がゼロになった。これをたった10年で実現されたというのはやっぱりすごい業績だというふうに思います。

また同時に、1キロメートル四方というふうにおっしゃられましたけど、僕はロンドンというか、昔のローマの都市って直系1マイルなんですよね。1.6キロの円形なんですよ。多分1キロじゃちょっと狭いので、1マイル四方ぐらいの広さの岡山のコンパクトシティ化というのも、私がこの10年ぐらい岡山に住んで、実感として、ものすごい勢いで進みました。とても魅力的なまちに変わったのかなというふうに思いますし、それから、そういうこともあってかもわかりませんが、仕事も重要です。やはり職がなかったら誰も岡山に住まないですよ。私のふるさとの県北では、みんな出て行ってしまうという状況にあるので、そういう意味では本当に岡山市は恵まれていて、バランスが取れたとてもいいまちだというふうに思います。だから、これを伸ばしていくべきだろうというふうに思います。

じゃあ一体何をするのかということ考えてみると、広島という中国地方のライバル都市があって、広島というのはもし戦争に勝っていたら軍港のまち、あそこへ行ったら自衛隊とか、自衛隊って名前じゃなくて、日本の陸軍とか海軍とかがあそこへいるぞとかって、そういうまちになって、それは本当に魅力的なまちなのかと言われると、ちょっと違うんだらうというふうに思うんです。言ってみると舞鶴みたいな、そんな雰囲気になってくるんじゃないかと思うので、いいとか悪いとかは別にしても、やっぱり平和都市という非常に優れた、しかも世界に発信できるような、そういう資産の上のまちづくりをされています。また、広島では市民が一生懸命頑張って野球のカープの応援やったんですよ。ぼろ負けしていてどうしようもない軍団が、何年かに一回は優勝します。今、実はサッカーについてもそういう市民応援団が乗ってきているので、広島というのは非常に活気のあるまちになっているというふうに思います。

翻って岡山を見てみると、岡山も、川崎製鉄がつくったちっぽけなサッカーチームが、辣腕経営者の木村さんが2006年にテークオーバーされました。そこからやっぱり20年かかってJ1昇格を果たしました。私は、木村さんってものすごい辛抱強い方だなというふうに思います。普通の人には20年も投資をして育て上げるっていうのはとても我慢できないと思います。辛抱されJ1にちゃんと昇格されました。とってもいいことは、恐らく一気に成績が下がったりとかこれで崩壊するとかということはないと思います。今の経営体制が続いていけば、じわじわと継続していく。ひょっとすると10年後はファジアーノの岡山ということになっているかもわかりません。だから、私たちはそういうことを妨害しないで、一生懸命育てるような、そういう施策をまとめていくべきなんだろうというふうに思っています。

それで、偶然なんですけど、私はこの第六次にも関わらせていただきました。日本全国いろんなまちが桃太郎のまちだと言ってるから、先行して「岡山は桃太郎のまち」という形で「桃太郎」を取ったらどうかと提言しました。我々吉備国というのはイコール桃太郎なんだから、これをやっぱり入れるべきだということで、桃太郎のまち岡山っていうのをに入れていただきました。10年前です。ブランド論の専門からすると、これを10年で変えるというのはいかななものかと思っています。あくまでNイコール1の一委員としてのお願いですけども、できれば桃太郎のまち岡山というのをもう一期、もう10年、つまり総合で20年、ファジアーノが時間が掛かったように、やっぱり20年くらいは定着するのに掛かると思います。あまりそういう基幹にあるような言葉をころころころころ変えると、ポジショニングが分からなくなる危険性があります。できたらこの桃太郎のまち岡山というのを残していただきたいなというふうに思っています。

それで、その上で何をやる計画をつくるべきなのか、どんな政策を打ち出すべきなのかというと、やっぱり「コネクティング」だと思います。委員の皆さんの中からもお話が出てましたけど、やっぱりここ岡山は中四国の中心なんですよ。地域を結びつけ、この中四国を結びつけ、そして歴史と人を結びつけ、文化と人を結びつけ、人と人を結びつけ、若者と年配者を結びつけ、そしてそれをやるための仕事と人を結びつける、そういう都市が多分岡山なんだろうと思うんです。

「コネクティングシティ」というのはすごくいいなと思ったんだけど、やっぱり分かりやすさということを考えると、「つなげる力」がよいのではと思います。「つなぐ」という言葉は多分、「絆」という言葉と同じようにとても大切な言葉なんだろうというふう

に思います。「つながる力でつくる未来」。みんなで協力し合って、それは歴史とか文化とかいろんなことの要素を入れながら、そしてこの地域、瀬戸内海全体、中四国全体というふうな広い視野で考えて、その中心都市の岡山をつくり上げるということをぜひ考えてみていただいたらいいなというふうに思っています。私案として「つながる力でつくる未来、桃太郎のまち岡山」というふうなのはどうかということ、ご提案をさせていただきます。

さっき濱西先生からお話があったんですけども、私は実は調査ばかりやってた人間なので、そんなにお金をかけないで調査する方法があるので、例えば桃太郎のまち岡山という桃太郎というのが、東京で銀座を歩いている100人の人が何人ぐらい想起できるのかというふうなことを調べて、それがどうなったのかということをちゃんと検証してみたいなと思います。正確に100%断定できるかということ、濱西先生がおっしゃられると思いますが、そんなもんじゃ駄目だよということになると思いますけど、何か技術的にちゃんと岡山市民の方たちを説得する資料としてそういうデータがあると、とてもいいなというふうに思います。

もう一つだけお願いは、「愛着と誇り」は「結果」なんですよね。「活動することによる結果」であって、それがこの「行動計画の規範」というか中心になるような言葉ではない。あくまでそれは結果にすぎないだろうと僕は思ってます。だから、20年前に庭園都市を目指して、実際に西川は見事に変わったと思います。あれと同じことを20年後に、この委員の方たちがご提案された考えが浸透することによって何かが生まれてくるんだろうというふうに思ってます、それができる岡山の未来を創るのに役に立てばいいなというふうに思っております。

私のほうからは以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

これは時間的には……。

○北川政策局長 まだ大丈夫です。

○阿部会長 大丈夫ですか。

○北川政策局長 4時まで。

○阿部会長 4時まで。私の発言の時間がないかと思って、すいません。

私、時間的に見ますと、昭和63年に瀬戸大橋が開通したときに、その半年前に岡山大学に着任してまいりまして、それ以来、岡山市の都市づくりですとか、それから岡山県の地域づくり、そういったことに携わってきたんですけども、1つやはりここで先生方の委員さん方のご意見も踏まえて申し上げておきたいのは、この基盤を生かしてこれから長期的にどういうふうに、ここの中でも書いておられる中枢拠点性というのを高めていくかという戦略を考えないと、このままだと二番煎じ、三番煎じで、そのまんま繰り返しになってしまうんじゃないかなという、少し心配しておるところであります。

大森市長さんになってから、かなりハード整備、それからソフトでも幾つか進んできてはおるんですけども、それが場当たりの終わらないように、ぜひ次の総合計画の中ではそれを上手く生かした形で、この岡山を中心にして岡山県南地域に、人口にすると120、30万いるところなんですけど、全国に同じところがあるんですけど、これが見えてないんですよ。結局、岡山市があり、倉敷市があり、その周りの都市があるという感じで、私はほとんど、幾つかの市の総合計画の策定に携わらせていただいているんですけど、皆さん考えられていることが、ここにそういった広域のポテンシャルを持つてる発展性のある都市をつくっていくという発想がなくて、皆さんそれぞれ自分の都市のことを考えてるということなんです。ですから、それを表へ出すのは難しいかもしれないんですけども、その背景、それをそこに置いた形で議論していかないと、これまでの繰り返しになるんじゃないかなというふうに心配しております。これはぜひお願いしたいと思います。

それから、都市のイメージとしては、これまで大森市長の下で進めてまいりました持続可能性という、持続可能な都市、そういったものをつくる。これは今、世界中の市民の共通の観点として定着してきておりますので、それが感じられる都市であるかどうかというのが非常に重要で、その際にやはり経済、それから社会、環境、それともう一つ重要なのがやはり人間ということ、それから自然との共生ということですね。それが考えられる都市になるかどうかというのが非常に重要なことだと思います。そういった意味で、岡山市というのは非常にポテンシャルを持っている、それから地域全体を引っ張っていける存在であると思いますので、そういったことをぜひ考えていただきたいなと思います。

長くなりますから、これだけ私の思いを一言だけ述べさせていただきました。よろしく

お願いいたします。

それでは、ほかに何か追加で申し上げたいというか、委員の方はいらっしゃいますでしょうか。

はい、田中委員さん、お願いします。

○田中委員 すいません、先ほど杉山委員から頂いた岡山市総合計画、これまでの変遷が分かって、ありがとうございました。

第七次のところで、「つながる力でつくる未来、桃太郎のまち岡山」ってあったんですけど、未来は体言止めじゃないといけないんでしょうか。つまり、その前の第六次だと、躍動するという動詞でつながってたんで、例えば「つながる力で未来をつくる、桃太郎のまち岡山」じゃまずかったんでしょうか。

○杉山副会長 全然問題ありません。ただの私案なので、変更していただいて大丈夫です。

○阿部会長 よろしいですか。

他はよろしいでしょうか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○阿部会長 それでは、最後になりますけども、大森市長さんのほうからコメントをお願いしたいと思います。

○大森市長 様々なご意見ありがとうございました。

幾つかの、皆さん方全体の考えの根底にあるものっていうのは、例えば岡山さんの、東京とは違うまちづくりという言葉もありましたし、濱西さんの、岡山にしかないものとか、田中さんの、岡山の特徴とか、様々なワードがありましたけれども、一言で言うと岡山の個性を磨くということなのかなという感じがいたしました。ただ、個性ってじゃあ何なんだというところが相当難しいところがあって、谷一さんがやられている古墳文化のような、それからずっと現代まで生きている、そして齋藤委員がおっしゃったような旧制六

高、医科大学も、これも歴史であるわけです。そして、現在も医療資源という面ではどこの地域にも負けない、こういうものを持ってるといって、これも一つの個性でありまして、それをどう表現をしていくかっていうことが重要なのかなというように感じたわけがあります。

今日、担当のほうから机上配付資料として様々なランキングが出てますが、別にランキングにそれほどこだわるわけではありませんけれども、1位をずっと見てると福岡が圧倒的に多いんですね。じゃあ福岡って何なんだっていったところでは、やはり様々な特徴が出てきている、その特徴を上手く発揮してるのかなという感じがあるわけで、我々も、例えば地政学でいくと、中四国の中心であることは、交通面では少なくとも中心であることは間違いないわけでありまして、そういったところは、これから強調していく歴史文化、そして高谷さんの言うスポーツの話もありましたけれども、そういった我々の個性っていうのを整理をして、それをブラッシュアップしていくっていうことが今回の総合計画においては必須なのかなと、皆さん方の意見を聞いても思ったところでもあります。

それから、最後に会長からあった都市圏全体でものを見ていくっていうのは、これはすごい重要だと私は思っております。ちなみに私、市長になる直前に、国土政策を扱う担当をやりましたが、そのときに、大きな都市は自分の都市だけを見ちゃ駄目なんだというので、都市圏全体を見ていく、それが必要なんだというような話をさせていただき、今幾つか具体的に動いてるところでありますけれども、そういう視点というのはぜひ考えてみたいなというように思っております。

杉山さんがおっしゃるように、まちづくりって短期では全くできない。ちなみに、就任して2、3年後に提示した路面電車の駅乗り入れは、多くの批判を浴びながら、そして、まだ実現してないというところで、来年ようやく広島とは違う形で実現することになるわけであります。ハレまち通りの2車線を1車線にするときは、あいつばかじゃないかって随分言われましたけど、たまたま今日も通りましたが、前とは違った店がどんどんできてきて、よくなってきてるんじゃないかなというように思います。

それから、高谷さんがおっしゃった公共交通。ちなみに、妹尾から北長瀬が具体的に動いてますが、全く上手く行ってません。あれほどJRからJRということで、そして市民病院もあり問屋町もあり、近くにね。本来であれば相当人が乗るはずなんですけども、それほど乗ってません。これは時間がかかるんですが、やはり利用してもらおう。だから、岡山さんから、あれはよかったじゃないかと褒められてはいるんですが、マスコミの方から

はどちらかという褒められは、これは阿部会長がリードしていただいたやつですから。実際上はなかなか上手く行ってないですよ。だから、これから様々なことを使いながら、皆さんに利用してもらって初めて公共交通というのは成り立つ。西田さんのところも便利になりますから。

○西田委員 お願いします。

○大森市長 はい。ぜひ使っていただく、そういう場にもしていくということが重要なのかなという感じがいたします。

様々な面でご示唆をいただきました。我々、今のご意見を踏まえて次回までに整理をさせていただきます、やらせていただければと思います。今日はありがとうございました。

○阿部会長 どうもありがとうございます。

あと1、2分でしたら何かございますけれども、よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○阿部会長 それでは、これで今日の審議を終了いたしましたので、進行を事務局にお返しいたします。よろしくお願いいいたします。

## 6 その他

○司会 ありがとうございました。

次回の第2回目の審議会は8月1日の開催を予定しておりますので、よろしくお願いいいたします。

## 7 閉会

○司会 これをもちまして令和7年度第1回岡山市基本政策審議会を閉会いたします。皆様ありがとうございました。